

掛ける香川小児病院心臓血管外科の江川善康医師に、小児心疾患のカテーテル治療の最新事情を聞いた。
—子どもにもカテーテル治療が可能なのか。

カテーテルを足の付け根などから血管に入れ、心臓まで挿入する治療法は大人と同じ。香川小児病院では小児循環器科の医師が担当している。先天性心疾患に対する件数はここ10年増加傾向にあり、昨年の施術数は全手術件数の13%にあたる23件。今年は既に30件を

昨年は全手術

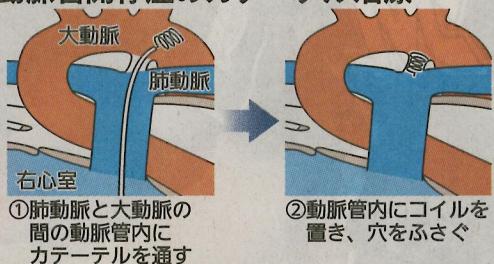
脈狭窄症^{さくせき}に対し、カテーテルの先に取り付けた風船を狭まった部分で膨らませて広げたり、ステントと呼ばれる金属製の網目状の筒を入れる手法がある。また、大動脈と肺動脈をつなぐ動脈管という血管は通常、生後に自発呼吸を始めると自然に閉じるが、これが開いたままになる「動脈管開存症」という疾患では、カテーテルで入れたコイルを動脈管に詰め、栓をする。

も使えるのか。

適応でくる疾患は限られたもので、重症度や血管の太さなどによっては開胸手術しかし方法がない場合もある。開胸する際には、できるだけ傷跡が小さくなるよう努めている。ただし、心臓は生命にかかわる重要な部位。無理に小さく切るのでなく、可能な範囲で行うのが鉄則だ。

—カテーテル治療は別の

動脈管開存症のカテーテル治療



■ 香川小児病院
1969年の心臓手術治療開始以来、先天性心疾患に対して2009年までに2744件の手術を実施した。ここ10年間は年間約80件を実施。現在は江川医師ら心臓血管外科の3人で担当している。
所在地：善通寺市善通寺町2603
電話：0877（62）0885
<http://www.hosp.go.jp/~kagawasy/>

昨年は全手術の13%

生まれつき、心臓の構造や、心臓につながる血管に異常を抱える先天性心疾患は、新生児約100人に1人の割合で起きるとされる。一般的に手術による治療が行われているが、近年では、開胸手術より負担が少なくて済むカテーテル治療も広がってきた。県内で唯一、小児の心臓手術を手掛ける香川小児病院心臓血管外科の江川善康医師に、小児心疾患のカテーテル治療の最新事情を聞いた。

香川の 医療 最前線

7

A color photograph of Dr. Kiyoshi Kuroda, a middle-aged man with a shaved head and a small red mark on his forehead. He is wearing a white lab coat over a light-colored striped shirt and a dark blue and black striped tie. He is seated at a wooden desk, looking slightly to his right with a faint smile. On the desk in front of him are several pieces of paper and a pen. A name tag or card is pinned to his left lapel, though the text is not clearly legible.

△えがわ・よしやす
年徳島大医学部卒。同学部付属
病院などで勤務した後、91年から
香川小児病院。心臓血管外科医
医長などを経て、2006年か
ら統括診療部長。心臓血管外科
専門医。日本小児循環器学会評
議員、日本循環器学会四国支部
評議員。徳島市出身。57歳。

て、治療体制が充実している。リスクの高い出産に対応し、母子を産前産後にわたってケアする「総合周産期母子医療センター」を2003年に四国で初めて開設した。子どもの心疾患が発覚される場合は産前から準備し、出産後すぐに新生児集中治療室（NICU）で治療に入る。胎内にいる時

「カテ」「テル」を便い
のようにならぬ治療するのか。
例えば、肺動脈が狭く血
液が流れにくくなる「肺動
脈狭窄症」に対し、カテ
ーテルの先に取り付けた風
船を狭まつた部分で膨らま
せ、狭窄部を拡張する。この
方法は、狭窄部の血流を増
加させ、狭窄部の心臓負担を
軽減する。
昨年、心疾患の小児で、
心臓負担が少ないものと
思われるものが見つかり、
その原因として、肺動脈
狭窄症が疑われた。しかし、
心臓負担が少ないものと
思われるものが見つかり、
その原因として、肺動脈
狭窄症が疑われた。しかし、
心臓負担が少ないものと
思われるものが見つかり、
その原因として、肺動脈
狭窄症が疑われた。

が小さく、回復も早い。近ごろは特に、美容面を気にする患者や家族が増えてきたので、傷跡がほとんど残らないのも利点だ。

—どんな先天性心疾患に

カテーテル治 は全手術

も使えるのか。

力などがこれに対してもカテーテルに取り付けて穴を開じられる折りたたみ式ののような器具が登場し、既に治療に取り入れている病院がある。香川小児病院では、まだ実績はないが、数年後のスタートに向けて準備を進めている。

き、新生児・乳児死亡率の低下につながっている。

—子どもが心臓病を抱えると親の不安も大きい。

先天性心疾患の場合、手術後も長期間、経過を観察する必要がある。心臓のほかにも異常を抱えている子どもが多く、親の気苦労は一層大きくなる。心臓が治つても解決できないことも多く、神経内科など院内のほかの診療科との連携も図つていい。